



27 平家物語 (1)

50点 / ☆☆☆

50点 / ☆☆☆

50点 / ☆☆☆

2点 × 4 = 8点

次の文の空欄に当てはまる言葉をとから選び、記号で答えなさい。

「平家物語」は、鎌倉時代に成立し、(1) 門の栄枯盛衰の様子を描いた軍記物語の代表作である。

仏教的な(2)が全編を貫いており、(3)「平家琵琶」として(4)が語り継ぎ、民衆に広く親しまれた。

- ア 無常観    イ 源氏    ウ 琵琶法師    エ 自然観
- オ 平曲    カ 浪曲    キ 平家    ク 兼好法師

(1)
(2)
(3)
(4)

次の線で現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

- (1) たけき者もつひには滅びぬ
- (2) 舟は揺り上げ揺り下す深へば
- (3) 扇も射よげにぞなつたりける
- (4) 感に堪へざるにやとおほしくて

(1)
(2)
(3)
(4)

次のア、イ、ウの各文のうち、擬音語や擬態語が用いられているものを四つ選びなさい。

- ア 与一、鎧を取つてつがひ、よつ引いてひやうと放つ。
- イ 鎧は海へ入りければ、扇は空へそ上がりける。
- ウ 扇の要際一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。
- エ 春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。
- オ よつ引いてしや首の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。
- カ 源氏の方には、また態をたたいてどよめきけり。


次の線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 亡くなった人の鎮魂を祈る儀式。
- (2) 筋方のオトコえを知らない祖父。

(1)
(2)

28 平家物語 (2)

50点 / ☆☆☆

50点 / ☆☆☆

50点 / ☆☆☆

2点 × 4 = 8点

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

頃は二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、折節北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は揺り上げ揺り下す深へば、扇も串に定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくはあの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損するものならば、弓切り折り自害して、人に再び面を向かふべからず。いま一度本國へ迎へんとおほしめさば、この矢外せたまふな」と、心の内に祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

与一、鎧を取つてつがひ、よつ引いてひやうと放つ。小兵といふちやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要際一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。鎧は海へ入りければ、扇は空へそ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。

夕日の輝いたるに、皆紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、舟端をたたいて感じたり。陸には源氏、態をたたいてどよめきけり。

〔平家物語より〕

- (1) 線①「いづれもいづれも」は、何を指していますか。十字以内で答えなさい。
- (2) 線②「これ」は何を指していますか。文章中から探し、五字以内で書き抜きなさい。
- (3) 線③「いま一度本國へ迎へんとおほしめさば、この矢外せたまふな」とありますが、このように願つたのはなぜですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 矢を射損じたときには、自害して責任を取らうと覚悟していたから。
- イ この機に弓矢の名人として世間に名を広めようと考えていたから。
- ウ 矢を射損じてしまうと、戦況が悪化して自軍が減ることを恐れたから。
- エ 弓矢の名人としての評判が落ち、主に処刑されることを恐れたから。
- (4) 線④「散つたりける」の主語を、文章中から探し、一文節で書き抜きなさい。
- (5) 線⑤「沖には平家、……どよめきけり」について次の問いに答えなさい。
- I この描写から読み取れる様子として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 与一の腕前に、敵の平家は侮しがり、味方の源氏は誇らしく感じている様子。
- イ 敵も味方も、夕日に照り輝く辺りの情景に見とれて感動している様子。
- ウ 敵と味方という違いによって、与一の腕前に対する賞賛の度合いが異なる様子。
- エ 敵と味方の区別なく、与一の腕前に感心し、ほめたたえる様子。
- II この描写に用いられている表現の工夫として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 擬人法    イ 反復    ウ 対句    エ 擬音語

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
I
II

(1)10点 (2)5点 (3)8点 (4)5点

◇ 次の漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

春望 杜甫

国破れて山河在り  
城春にして草木深し  
感時花溅泪  
恨別鳥惊心  
烽火連三月  
家書抵萬金  
白頭搔更短  
渾欲不勝簪

別れを恨んで鳥にも心を驚かす

家書万金に抵たる  
白頭搔けば更に短く  
渾て簪に勝へざらんと欲す

国破れて山河在り  
城春にして草木深し  
感時花溅泪  
恨別鳥惊心  
烽火連三月  
家書抵萬金  
白頭搔更短  
渾欲不勝簪

- この詩の形式を次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 五言絶句 イ 七言絶句 ウ 五言律詩 エ 七言律詩
- 線 a・b に対応している言葉を a は一字、b は二字で探し、それぞれ書き抜きなさい。  
第三句・第五句を書き下し文に直して書きなさい。
- この詩から読み取れる心情として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 年老いることへの不安 イ 世の中を変えたいという野望  
ウ 別れた家族への思い エ 戦乱の世の中に対する悲嘆
- 第四句・第八句に返り点を付けるとどうなりますか。最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)	(2)	(3)	(4)
	a	三句	
	b		
			五句
			八句
			四句

(3) 10点×2、他5点×6

◇ 次の各文の線の言葉から助動詞を一つずつ選び、記号で答えなさい。

先輩の演説が、すばらしかったね。

ずっと病気で寝ていたら、さぞ遊びに行きたかろう。

危険な仕事なので、彼が遂行しようとするのをやめさせた。

急用ができたそう、電話の向こうの声は慌てている。

兄に本を読ませた。

明日は六時に起きよう。

昨日は遠足に行った。

この湖は、まるで海のようにだ。

その本は誰も読まない。

あれが目的地だ。

早く水が飲みたい。

ア 断定 イ 希望 ウ 打ち消し エ 使役  
オ 過去 カ 意志 キ たとえ

- 次の各組から、線の語の文法的な性質がほかと異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。  
(5点×4=20点)
- まだ花が咲かない。 イ うまく理解できない。  
作業が終わらない。 エ 難しいところはない。  
兄がバケツで水を運んだ。 イ 姉の趣味は読書だ。  
作文はまだ書きかけた。 エ 作文は清書をすれば完成だ。  
いずれ連絡が来るそうだ。 イ 荷物は明日中に届くそうだ。  
明日も練習をするそうだ。 エ 今度はいまうまいきそうだ。  
赤ちゃんの笑う顔が愛らしい。 イ 弟をしかるのも、姉にとっては愛らしい。  
ウ 子役のけなげな演技が愛らしい。 エ ちよこんとついた花のつぼみが愛らしい。

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

31

漢字道場5 他教科で学ぶ漢字(2)

実施日

得点

50点

50点

50点

理解度

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆

① 次の一線の漢字が正しいときは○、誤りがあれば正しい漢字を書きなさい。

- (1) 横隔膜を上下に動かして呼吸をする。
- (2) ぶたや牛などの家畜の世話をする。
- (3) 化学薬品工場で爆発事故が起きる。
- (4) 花の蜜を吸いにモンシロチョウがやってくる。

(1)
(2)
(3)
(4)

② 次の一線のカタカナに当てはまる熟語を下から選び、記号で答えなさい。

- (1) ビニールハウスでなすのソクセイ栽培をする。
- (2) 大地震を想定してヒナン訓練をする。
- (3) 祖父はキセイのスーツより注文服のほうが好きだ。
- (4) 工場で水を加えて濃縮果汁をカンゲンする。

(1)
(2)
(3)
(4)

- (ア) 促成
- (イ) 速成
- (ウ) 非難
- (エ) 避難
- (オ) 既製
- (カ) 既成
- (キ) 管弦
- (ク) イ還元

③ 次の一線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 黒部川の扇状地は規模が大きい。
- (2) 友達と美術館で浮世絵を見る。
- (3) サクラソボの摘芽を手伝う。
- (4) 金属と硫酸を使って水素を発生させる。
- (5) 大きな病院で肝臓の手術を受ける。
- (6) カマクラ時代の文化を調べる。
- (7) 富士山はスノの美しい山だ。
- (8) 母とカブキを見ようと出かける。
- (9) ハチの巣を駆除する。
- (10) 死因を調べるために遺体をカイボウする。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)

32

走れメロス (1)

① 次の文の空欄に当てはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

「走れメロス」は、青森県出身の(1)が書いた物語である。登場人物の(2)の描写が多量され、人間の心の強さや弱さに鋭く切り込んだ作品になっている。(1)は、(3)の候補になって名が知られるようになった。

- ア 直木賞
- イ 太宰治
- ウ 芥川龍之介
- エ 芥川賞
- オ 心情
- カ 風景

(1)
(2)
(3)

② 次のア～カの各文のうち、一線の語句の使い方が正しいものを四つ選びなさい。

- ア けんか同成敗だと思つたが、一方的に悪者にされてしまいきり立った。
- イ どんな相談にも親身になって答えてくれる兄は、私にとって無二の存在だ。
- ウ 「本を貸して」と笑いながら哀願されたが、読みたかったので断つた。
- エ 世界的な賞を総なめするほどの希代の名俳優が誕生した。
- オ 筋肉トレーニングを毎日続けることで、頑強な肉体を手に入れよう。
- カ 運動会開催の合図の音を小耳に挟んだので、急いで支度を始めた。

(1)
(2)
(3)
(4)

③ 次の一線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 花嫁衣装のデザインを考える。
- (2) 背後から怪しい音が聞こえる。
- (3) 試験日に寝坊するという不吉な夢を見る。
- (4) 理不尽な対応に憤慨する。
- (5) 大会前の緊張でイッスイもできなかった。
- (6) トウゲを二つ越えたと隣の村だ。
- (7) 行商人がサンゾクに襲われる。
- (8) 映画スターになることをモウソウする。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歩いてるうちにメロスは、町の様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、町の暗いのはあたりまえだが、けれども、何だか、夜のせいばかりではなく、町全体が、やけに寂しい。のんびりメロスも、だんだん不安になってきた。道で会った若い衆を捕まえて、何かあったのか、二年前にこの町に来たときは、夜でも皆が歌を歌って、町は「あつたはずだが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老翁に会い、今度はもつと、語勢を強くして質問した。老翁は答えなかった。メロスは両手で老翁の体を揺すぶって質問を重ねた。老翁は「返りをはばかりる低声で、僅か答えた。

「王様は、人を殺します。」 「なぜ殺すのだ。」 「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持つてはおりませぬ。」 「たくさんの人を殺したのか。」 「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」 「驚いた。国王は乱心か。」 「いいえ、乱心ではございませぬ。人を、信ずることができぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しくはでな暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。今日は、六人殺されました。」 聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」 (太宰 治「走れメロス」より)

- (1) 線①「怪しく思った」とありますが、それはなぜですか。文章中の言葉を使って答えなさい。
(2) には、ある形容動詞の連用形が入ります。ひらがな五字で答えなさい。
(3) メロスは、どのような人物ですか。次の文の「A」に当てはまる言葉を文章から三字で探し、書き抜きなさい。また、「B」に当てはまる言葉をあとから一つ選び、記号で答えなさい。
「A」な性格だが、正義感が強く、「B」なものに対しては、人一倍敬感である。
ア 不安 イ 無邪気 ウ 邪悪 工 孤独
(4) 線②「返りをはばかりる低声で」とありますが、老翁がこのような態度をとるのはなぜですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア メロスを信用してよいかどうか分からないから。イ 人に聞かれたら自分も捕まる可能性があるから。ウ 町に住む人間だけの秘密を語るようになるから。工 自分の話す内容に自信が持てないから。
(5) 線③「国王」の行動の根底にあるのは、どのような心情ですか。文章から十二字で探し、書き抜きなさい。

Table with 5 columns and 5 rows for answer selection. Columns labeled (1) through (5). Rows labeled A through E.

(1) 12点 (2) 4点 (3) 8点 (4) 7点 (5) 7点

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ありがたう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実(まこと)は、この世でいちばん誇るべき宝なのだから。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺(あざむ)くつもりは、みじんもなかった。A「私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流(たぎら)を突破した。山賊(やまぞろ)の囲みからも、すりりと抜けて一気に峠(とうげ)を駆け降りてきたのだ。私だから、できたのだよ。ああ、このうへ、私に望みたもうな。B「どうでも、いいのだ。私は負けたのだ。だらしがない。C「王は私に、ちよつと遅れてこい、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣(ひりやく)を憎んだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになっている。私は、遅れていくだろう。王は、独り合点(ごてん)して私を笑い、そして事もなく私を放免(はなは)するだろう。そうなたら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠(とこしえ)に裏切り者だ。地上(ちじやう)で最も、不名誉(ふめいぎよ)の人種(しゆしゆ)だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょにD「君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それ私も私の、独りよがりか? ああ、もういっせ、悪徳者(あくとくしや)として生き延びてやるのか。村には私の家がある。羊(ひつ)もいる。妹夫婦(いまいづむ)は、まさか私を村から追い出すようなことはしないだろう。正義(せいぎ)だの、信実(まこと)だの、愛だの、考えてみれば、くだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法(ていぽう)ではなかったか。ああ、何もかも、ばかばかしい。私は、醜(みにく)い裏切り者だ。どうとも、勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢(しそ)を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。」 (太宰 治「走れメロス」より)

- (1) AとDに当てはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア 笑ってくれ イ 信じてくれ ウ 死なせてくれ 工 放っておいてくれ
(2) 文章中でセリヌンティウスのことを表している四字の言葉を探し、書き抜きなさい。
(3) 線①「王の卑劣」とありますが、それはどのようなものですか。文章中の言葉を使って答えなさい。
(4) 線②「そうなたら、私は、死ぬよりつらい」とありますが、これはどのような心情ですか。適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 遅れようとしたのではないと分かっている。イ 結果的に親友を裏切ることになって不本意だ。ウ くだらないことで一生苦しみたくなかない。工 友の信実(まこと)に報(むか)えられずに生きるの苦しさすぎる。
(5) 線③「裏切り者」と同じ意味で使われている言葉を文章から探し、三字で書き抜きなさい。
(6) 線④「それ」とありますが、どんなことを指していますか。文章中の言葉を使って答えなさい。

Table with 6 columns and 6 rows for answer selection. Columns labeled (1) through (6). Rows labeled A through F.

(1) 4点 (2) 4点 (3) 10点 (4) 6点 (5) 6点 (6) 6点

◇ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ああ、メロス様。」うめくような声が、風とともに聞こえた。  
「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。  
「フィロストラトスでございます。あなたのお友達セリヌンティウス様のお弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、だめでございます。無駄でございます。走るのは、やめてください。もう、あのかたをお助けになることはできません。」  
「いや、まだ日は沈まぬ。」  
「ちやうど今、あのかたが死刑になるところです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申します。ほんの少し、もうちよつとでも、早かったなら！」  
「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日はかりを見つめていた。  
走るよりほかはない。  
「やめてください。走るのは、やめてください。今はご自分のお命がだいじです。あのかたは、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様が、さんさんあのかたをからかっても、メロスは来ます、とだけ答え、強い [ ] を持ち続けている様子でございました。」  
「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、何だか、もつと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」  
(太宰 治「走れメロス」より)

- (1) 線①「無駄でございます」とありますが、何が無駄なのですか。文章中の言葉を使って答えなさい。  
(2) 線②「赤く大きい夕日はかりを見つめていた」とありますが、このときのメロスの心情として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 何とかして間に合いたい。  
イ セリヌンティウス、待つていてくれ。  
ウ 日よ、まだ沈むな。  
エ もう間に合わないだろうか。  
(3) 線③「王様が、さんさんあのかたをからかつて」とありますが、王が言ったことを考えて答えなさい。  
(4) [ ] に当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 信念 イ 信心 ウ 背信 エ 過信  
(5) 文章中で、文の後半を省略することで強い思いを表している一文を探し、初めの五字を書き抜きなさい。

(4)	(3)	(2)	(1)
(5)			

(1) (5) 10点×5

① 次の ( ) に当てはまる語をあとから一つずつ選び、書きなさい。(ただし、一度しか選べません)  
(4点×4=16点)

- (1) 瓶のふたを ( ) 。  
(2) 読みかけの本を ( ) 。  
(3) 悲しみで心を ( ) 。  
(4) 営業が終わり店が ( ) 。

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

② 次の語の類義語になるように、あとの漢字を選んで組み合わせなさい。  
(2点×8=16点)

- (1) 突然 (2) 刊行 (3) 欠点 (4) 重宝  
(5) 遺品 (6) 計画 (7) 納得 (8) 用意

意出知便準構承所  
版短見利想不形備

(5)	(1)
(6)	(2)
(7)	(3)
(8)	(4)

③ 次の 線 の対義語になるように、( ) に当てはまる言葉を漢字を使って書きなさい。  
(3点×6=18点)

- (1) ゴムは伸び ( ) する。  
(2) 冬は暖かいのに夏は ( ) 環境のよい部屋。  
(3) 浮き ( ) の激しい商売をする。  
(4) 市場で盛んに売り ( ) が行われる。  
(5) とびらの開け ( ) は静かにしましょう。  
(6) 家と学校の行き ( ) を繰り返す。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
-----	-----	-----	-----	-----	-----

次の線の漢字として正しいものを( )から選び、記号で答えなさい。

- (1) シュウカン誌を読む。  
 ① 早起きのシュウカン。  
 (ア) 習慣 イ 週間 ウ 週刊
- (2) この案にイギのある人はいいますか。  
 ① 人生のイギを考える。  
 (ア) 意義 イ 異議 ウ 異議
- (3) 十代の若者をタイシヨウに行つた調査。  
 ① 兄と弟はタイシヨウ的な性格だといえる。  
 (ア) 対症 イ 対照 ウ 対象
- (4) 料理を作るカテイを楽しむ。  
 ① カテイをもとに研究を進める。  
 (ア) 課程 イ 過程 ウ 仮定
- (5) あなたのお兄さんをシヨウカイしてください。  
 ① 役所で身元をシヨウカイする。  
 (ア) 紹介 イ 照会 ウ 商会
- (6) 病人のカイホウをする。  
 ① 城の門をカイホウする。  
 ② 病状がカイホウに向かう。  
 (ア) 解放 イ 介抱 ウ 快方 工 開放

(4)	(1)
①	①
②	②
(5)	(2)
①	①
②	②
(6)	(3)
①	①
②	②
③	

② 次の線のカタカナを、適切な漢字に直して書きなさい。

- (1) 真理をツイキユウする。  
 ① 責任をツイキユウする。  
 ② コクサイ的に有名な映画祭。  
 ③ コクサイが発行される。  
 ④ コウセイな決定をする。  
 ⑤ 悪の道からコウセイする。

(3)	(2)	(1)
①	①	①
②	②	②

4点×6=24点

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしが一番きれいだったとき  
 茨木のり子

わたしが一番きれいだったとき  
 街々はがらがら崩れていつて  
 ともでもないところから  
 青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき  
 まわりの人達が沢山死んだ  
 工場で 海で 名もない島で  
 わたしはおしゃれのきつかけを落してしまつた

わたしが一番きれいだったとき  
 わたしが一番きれいだったとき  
 だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった  
 男たちは拳手の礼しか知らなくて  
 きれいな服差だけをノコし皆発つていつた

わたしが一番きれいだったとき  
 わたしの頭はからっぽで  
 わたしの心はかたくなで  
 手足ばかりが栗色に光つた

わたしが一番きれいだったとき  
 わたしは国は戦争で負けた  
 そんな馬鹿なことつてあるものか  
 ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき  
 ラジオからはジャズが溢れた  
 禁煙をやつたときのようにくらくらしながら  
 わたしは異国の甘い音楽をむさぼつた

わたしが一番きれいだったとき  
 わたしはとでもふしあわせ  
 わたしはとでもとんちんかん  
 わたしはめつぱうさびしかつた

だから決めた できれば長生きすることに  
 年とつてから 美しく美しい絵を描いた  
 フランスのルオー 爺さんのように  
 ね

- (1) 線 a、b、c の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。
- (2) 線「異国」と同じ意味の言葉で、漢字二字で答えなさい。
- (3) 線①のようにしたのは、何のためですか。詩の中から漢字二字で書き置きなさい。
- (4) 線②は、どんな気持ちから出たものですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
 ア 自分の青春時代の過ごし方に対するとまどい。 イ これまで信じてきたものが崩壊した怒り。  
 ウ 戦争に本当に負けたのだらうかという疑い。 エ まだまだ戦えるのにと無念。
- (5) 線③を、普通の語順の言い方に直しなさい。  
 作者の気持ちをまとめた次の文の「A」「B」「C」に当てはまる言葉を詩の中から探し、書き置きなさい。  
 わたしの「A」を、「B」で台無しにしてしまったから、「C」して、しあわせにならう。

(6)	(2)	(1)
A		a
	(3)	b
	(4)	c
B	(5)	
C		

(1) 4点×3、(2) 5点×4、(3) 5点×6、(4) 8点